

第3回 湖西市定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

開催日時	平成25年9月30日(火)午後6:30~午後8:00
開催場所	湖西市役所2階 市長公室
委員	(出席者) 10人 (欠席者) 1人 (事務局) 3人
内 容	
1 事務局のあいさつ 今回の懇談会で、定住自立圏共生ビジョン懇談会の最終回を予定している。この後は、この案をHPに載せて市民の皆様のご意見をいただいて整理をし、総務省に提出する。	
2 議題 (1) 定住自立圏共生ビジョン(案)について ①委員の意見一覧について、事務局が説明 (質疑応答) 委員：確認だが、資料というのは今回頂いたものでいいのか。これから資料を読みこなして話をしていくということでもいいのか。 事務局：はい。 委員：質問No.2の、将来目標人口としての64,000人だが、別紙2P3の人口予測で、平成32年で57,564人となっている。64,000人と考えるということは、それを何に求めるかということがないとならないと思う。 事務局：P3の57,564人は自然見込み、将来目標人口としての64,000人は湖西市の行政計画である総合計画で目標として見込んでいる数値。 委員：7,000人増える要素は。初めてそういうことを聞くと「7,000人って何なのか。」と思ってしまう。64,000人にした内訳を教えてください。 事務局：出生と死亡の関係と、転入と転出による傾向を見ていくと、57,564人になるのではという見込み。それを行政計画で64,000人にしたいというところのものは、まず、昼間人口が64,000以上あるので湖西市内への居住の定着化の促進を図ることや、まだ土地が空いているのでその土地への定住化の推進や企業の誘致などの手法を組み合わせる中で64,000人の人口を目指したいという考え。 委員：7年で7,000人増やすという目標は、公的なものがわかっていてあげられているとは思いますが、大丈夫なのか。 事務局：具体的に64,000人をやめたほうがいいとか、60,000人のほうがいいという考えがあるのか。 委員：64,000人はハードルが高すぎるのではないかという感じがする。減っている傾	

向がある中で10%以上増やそうということなので、それは大丈夫なのか。

事務局：この64,000人というのは、総合計画の中で皆様に議論をしていただいて平成22年に目標として掲げたものなので、この数字を他の数字に変えるのは意味がないことだと思う。定住自立圏共生ビジョンに掲示するかしないかの判断になると思う。

委員：総合計画は平成22年に策定したものか。

事務局：平成22年に、平成23年度から平成32年度までの総合計画を作っている。

委員：平成22年度の人口62,784人より、すでに2,000人減っている。

委員長：実際に市の総合計画でやる事業の中で、定住自立圏共生ビジョンはその一部の事業になっている。この後に取り組みの説明があるが、その取り組みで64,000人になるような内容になっているのか、そこまでインパクトのある取り組みがあるとは思えない。

事務局：64,000人は入れない方法もある。

委員：質問No.4の「企業の進出希望情報が極めて少ない状況」と書いてあるが、海外進出などで企業人口が減っている。そういう情報を各企業で将来的に増やすような施策はあるのか。

事務局：企業から海外進出の相談は受けているが、市では、海外へ出て行く企業の支援はどのような形がいいかというのは、はっきりした構築がされていない。JETRO、銀行の支援情報提供にとどまっている。

委員：海外進出なども進み、就業者人口は減っていく。さらに自然でも減っていく。新しい企業を入れるというのも手だが、既存の企業に対して就業者人口を増やしたいという働きかけはないのか。減らさない行政の努力はないのか。

事務局：企業との意見交換をした中でどのような支援ができるのか、どのような支援をして欲しいのかということ構築・見直ししていく必要がある。現段階で行っているのは、企業立地促進制度という、土地の取得費2割補助や固定資産税の2分の1を翌年度に返すなど、市内で設備投資をしてもらえるように負担を下げる支援をしている。

委員：もう1点は、計画書の最後の報告というのは意見が出ても取り上げられない状況がみえる。アイデアがあったことを出していないと、全部却下はよくない。アイデアがあったことを、どこかにまとめられないか。

事務局：この後のビジョンの説明でみていただきたい。

②ビジョンの修正について、事務局が説明

(質疑応答)

委員：P3のS55年の人口の数値が違っている。

事務局：訂正する。

委員：P 4の市民意識調査結果を経年比較にできないか。経年比較をして、今どのような方向であるかを示すのは有効だと思う。

委員長：P 21の⑤人材の活用や育成の中に「市民の協働」という言葉を入れてみたらどうか。

委員：人口をとにかく減らさないようにしなければならない。昼間人口と夜間人口の差があるということで、昼間の人たちは土地がある程度手に入りやすい状況になっていけば住むようになると思う。その土地利用の計画というのは市にはあるのか。

事務局：具体的な土地利用の考え方は総合計画の中にもあるが、もちろん市街化区域を中心に、市街化区域の利用促進を図って人口増加を図る、あるいは市街化調整区域については、計画区域の構想として「こういったところを使ったらどうか」という考え方はあるが、ただ、今回は具体的な取り組みが入れられなかった。

委員：湖西市は、豊橋・浜松間で非常に住みやすい場所であると思う。どちらに通うにしても通いやすい。豊橋・浜松よりも土地の価格が安ければある程度住むと思う。意外と浜北の方は人口増になっているので、まだまだこの地域も魅力ある場所だと思う。そういったところを出してもらえるとよいのでは。

事務局：P 15に土地利用について現状を掲載している。具体的な取り組みの事業はP 31に掲載している。市街化区域中の未利用地の利用促進と、組合土地区画整理事業を行っているところへの補助、そうしたところでの住むところの確保をおこなっている。

委員：人口は減ってしまう前に行政として何らかしていかなければならない。人口が減っていけば税収が減ってしまい、できる事業が少なくなってしまうかもしれない。思った事ができずにイメージだけが先行してしまっ、ますます人口が減ってしまう。そうなる前に「こういう計画があるから湖西に家を建てよう」という人が増えていくといいのかなと思う。

あと、情報開示があると市民も計画が立てやすいのでは。

委員長：教育の中での取り組みがいろいろあるが、それに対しての現状の掲載が、講座の申込者数・申込率のみでは少ないのではないか。

事務局：検討する。

委員：P 28の、高齢者バス利用料金助成の対象が75歳以上というのはどういう決め方なのか。75歳に根拠はあるのか。

事務局：根拠は、高齢者の担当に確認してみないとはっきりしないが、公的に線が引かれる部分というのは後期高齢者が75歳からという定義になっているので、65歳以上が高齢者というカテゴリーの中で、家で活動できる年齢層までの高齢者と、介護がかなり必要になってくる年齢ということで、75歳で線を引いているので

はと思う。本当に75歳で線を引いて、そういう政策を取ることが良いのかどうかは議論が多くあるとは思う。

委員：今では70歳までは働く人もいる。退職して家にこもらないレベルで外出支援をすることで、外に出る景気づけができるとういのでは。

委員：P21④地域間のネットワークの「外部へ情報発信する・・・」とあるが、外部とは。市外のことなのか、市内の地域間が相互に情報発信していくのか。発信だけではなく、自分達の町の魅力を学ぶ取り組みも必要なのではないか。

事務局：イメージとしては市外への発信というところで、市外の人を取り込んで定住してもらおうという考えでいた。先ほどのご意見のような考え方もあった。市内に住んでいても、まだまだ知らないこともある。項目を「地域間のネットワーク」としているので、当然地域間でお互いの地域のことを学ぶことも必要であるとは思った。

委員：P13のグラフは内容に合っているのか。高齢化率の推移を入れた方がよいのではないか。

社会保障費についても、3年ごとで目まぐるしく変わっている。もしかしたら、制度改正により要支援・要介護認定そのものがなくなってしまうかもしれない。定住がテーマなので介護の認定割合ではなく、施設などの社会資源に関する情報を入れてみたらどうか。

事務局：他のデータ入れてみたいと思う。

委員：P5の流出人口が平成17年は14,586人、平成22年は9,956人で、約5,000人減っているのはなぜか。出ていく人が減ったのは湖西市に魅力があるから等の理由があるからなのか。

事務局：流出人口は、湖西市に住んでいて市外に通勤・通学で出ている人口。流出人口が減ったのは、通っている方の企業が移転したとか、そもそも湖西から転出したから減ったとか、様々な要因はあると思う。

委員：流出人口が減らせば、人口減少が小さくなると思ったが違っていた。

事務局：流入人口で、豊橋・浜松から来ている人を住宅政策を行うことによって定住化させることができれば、この差は埋まって、なおかつ人口の減少も減る。

平成17年から平成22年で流出人口が減った理由として想像で考えられる要素としては、子どもの数が少なくなって通学する子どもの数が減っていること、高齢化が進んでいるので、今まで市外の職場に通勤していた人が定年退職して市内で働くようになったなどの要因があるのでは。

委員：市外で住んでいた人が市内に住んでくれる為のメリットはあるのか。

事務局：政策として行っているのは、子育て支援手当てがある。市外からの転入時の住宅取得費の補助などを行っているところもあり、参考にはしているが、すでに湖西市に住んでいる方との不公平感が出てしまうのでできていない。

委員：産婦人科がない等からすると、市外でよい条件を提示されると市外へ出て行ってしまおうと感じている。

事務局：人口の増加が期待できる提案を頂けるとありがたい。

委員：自分は浜松出身で、湖西市に住んでみると良いところがたくさんあるが、なかなか外に伝わっていない。人柄や地域の交流など、人とのストレスが少ない。子育てをしていく環境においても、浜松に比べてずっと保育園に入園しやすい。そういう良さをもう少しみんなで共有できて、住んでいる人も「良い所だよ」と言えるようになるとよい。行政がやっている話ではあるとは思いますが、住んでいる人が実感できて伝えられるようになると信頼度が上がる。

事務局：たしかにみんなが「良い所だ」と言っていけば良い評価が広がっていく。場を盛り上げていくことは大切な取り組みだと思う。

委員：豊橋・浜松に行きやすい所にある。不安要素よりも、交通で結ばれている等、「あること」が見えていくようにアピールすべき。

③今後のスケジュールについて、事務局が説明

(質疑応答)

委員：公開日はいつなるのか。

事務局：10月1日に公開する。今の形で公開して、今回の懇談会で出たご意見については別に対応する。

(2) その他について

委員長：これまで3回の懇談会を行ってきた。定住自立圏という考え方はなかなか理解しづらく、議論が難しかったと思う。今回で懇談会は最後になるので、定住自立圏に対する取り組みや、懇談会を振り返った印象など、いろいろなご意見をいただきたい。

委員：なかなか大きすぎてよく分からなかった。あまり広くやると印象が残らない。印象に残すためには、1つ大きな施策をもうけて定住自立圏の話をするとのすごく前進すると思う。

委員：大きい中身になっていた。「こういう所がいいんだよ」と他の地域や今住んでいる住民の皆さんにアピールすることと、そこから伝播されていく仕組みが必要だと思う。

委員：課題があって、それに対応するという形になりがちだが、良さの面がわかったうえで行っていくというような形がいいのではないかと思った。

- 委員：せっかく予算をいただいているので、それぞれ振り分けて各項目に使っていかうという趣旨が入っていると思うが、それを後から活用が不十分だと言われなように運用してもらいたい。補助金をもらっただけで終わらないように。
- 委員：今いる人達を大事にしてもらいたい。そこから湖西市が良い所だと自信を持って言えるように、発信できる湖西市にしていってもらいたいと思った。
- 委員：湖西市の実態が勉強になったが、自分の意見はなかなか通らず難しい。住みやすい場所にしたいという思いは伝わる。さらにレベルアップしていけばいい。
- 委員：三ケ日に生まれ育ったが、湖西市に来てからのの方が長くなった。湖西市は本当に住みやすい所だと思っている。皆様のご意見を聞いても、湖西市が好きでもっと住みやすい町になって欲しいと積極的で、市民の皆様がこのような気持ちになってくれば、もっと定住できるような湖西市になると思う。貴重なご意見を頂いたので、成果が見えるような施策を実行していってもらいたい。
- 委員：人口減を何とか食い止めるのが大事なこと。女性の環境が大切。待機児童ゼロというのはアピールすべき。女性が社会に進出していくことができ、安心して子どもが育てられる環境を作ることが大切。
- 委員：いろいろな分野の方と行政の方と顔を合わせて話ができてよかった。いろいろな方面から見ることができる。パブリックコメントは文字だけになってしまうと思う。顔が見えない中で批判ばかりしていく感じではなく、顔を合わせて一緒に考えていくことが必要。
- 委員長：各会の代表の方が懇親会に参加しているので、議題の方に時間を取られすぎていたが、委員それぞれの観点から話をするフリートークがあってもよかったのではないか。

4 事項連絡